

＝ 普及 情 報 ＝

No. 1

平成30年4月16日

隠岐支庁農林局農政・普及部

標 題 高品質酒米の実証に向けて！ ～酒米出荷反省会&栽培講習会を開催～

(ダイジェスト)

隠岐の島町水田営農経営研究会では酒米の品質向上を図るため、3月12日に講師として農業技術センター及び(株)隠岐酒造を招き出荷反省会と栽培講習会を開催しました。生産者及び関係機関で酒米生産の現状と課題を共有し、平成30年産の高品質化に向けて取り組むことを確認しました。

隠岐の島町では、5経営体が約10haの酒米(品種:五百万石、神の舞、山田錦)を生産しており、町内の酒造メーカー「(株)隠岐酒造」が原料として全量使用しています。しかし、1等米以上の比率が低く、品質の向上が求められています。

このことから、町内の水稻生産者で構成される「隠岐の島町水田営農経営研究会」では、3月12日に“品質向上”をテーマとした出荷反省会と栽培講習会を開催しました。

反省会では、JAからH29年産の集荷実績・検査等級結果等の報告のあと、目指す酒米の姿を確認するため、品質が安定している飯南産と隠岐産のサンプルを比較しました。また、普及部が提供した隠岐の島町産の生育・収量・品質調査結果や土壌分析データをもとに参加者で酒米の品質低下の要因を検討しました。

その結果、「隠岐は飯南地区と比べて夜温が高く、籾の充実速度が緩やかであること」、そして「生育初期の過剰分けつによる登熟歩合の低下が品質に影響を及ぼしていること」を確認しました。

講習会では、農業技術センターの山本主任研究員から高品質生産のポイントとして、①各品種特性の把握をすること、②過剰分けつを抑えること、③秋落ちしない土づくりを行うこと等助言を受けました。中でも参加者の土づくりについての関心が高く、平成30年産においては、参加生産者全員が肥培管理の改善に取り組むことが確認されました。

また、(株)隠岐酒造の毛利代表取締役社長より、日本酒を巡る情勢や隠岐の島町産酒米に対する評価をお話いただき、「品質は年々着実に上がってきているため、生産者も自信を持って取り組んでほしい」と力強い言葉をいただきました。

今後農政・普及部では、生育初期の過剰分けつの制御を目的とした実証ほ(基肥窒素の低減)を設置し、農業技術センターと連携をとりながら支援を行っていく予定です。

〈研修会の様子〉

